

株式会社ぐるなび パソコンスキルの底上げを目指し 新入社員のマイクロソフト オフィススペシャリスト 取得を支援

日本最大級の飲食店情報検索サイト「ぐるなび」をはじめ、旅行や結婚、デリバリーなどの各分野を「食」で結びつけた横展開のサービスを意欲的に実施している株式会社ぐるなび。

総掲載店舗数約50万店、詳細情報掲載店舗数6.4万店、月間ユニークユーザー数1,800万人、月間アクセス数8億5千万PVを誇る巨大サイトぐるなびを支える社員育成の一環として、2009年4月より新入社員研修のなかでマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を導入。その取り組みと今後の展望についてうかがいました。

新入社員研修の最終目標として導入

—— 新卒のパソコンスキル標準化を目指す

株式会社ぐるなび(以下ぐるなび)は、圧倒的ユーザー数を誇る人気サイト「ぐるなび」をはじめ、「ぐるなびデリバリー」「ぐるなびレシピ」「ぐるなび地産他消ナビ」など、飲食店情報のトータルサイトを運営するリーディングカンパニーとして、食に対する膨大かつ多彩なウェブサイトを展開しています。

同社は、交通広告会社の株式会社NKBの一事業として1996年に誕生し、2000年に会社として独立。グループ企業を含めた社員数は1,500人を超え(2009年12月現在)、近年は新卒採用にも積極的に取り組んでいます。新卒の新入社員研修にマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を導入した経緯を、管理本部 人事部門 部門長の田中潤さんは次のように説明します。

「新卒採用に携わって感じるのが、大学のIT教育への取り組みや本人の使用頻度などによって、学生のパソコン習熟度に差があるということです。そこで、パソコンスキルを一定レベルに揃った状態で新入社員が仕事をスタートできるよう、2009年度からマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を導入することを決めました」

同社では、2008年10月の内定から2009年4月の入社までの半年間に、各自がパソコンの基礎を学ぶためのeラーニングを行い、その学習成果の集大成として、新入社員研修期間中にマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を受験する流れを組んでいます。田中さんは、学びの締めくくりとして、資格に挑戦することを大変有効だと言います。

「人は誰も目標があると、そこまでの過程に力が入るもの。そこで、学んだ後の最終地点に何か目標が欲しいと考えました。そんな折に、

Excel[®]やPowerPoint[®]などのスキルを証明するマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)という資格のを知り、到達目標としてちょうど当てはまりました」

より良い社会人生活をスタートするために

—— パソコンスキル習得を指導

内定者に対してぐるなびでは、社会人として良いスタートを切るために入社までの半年間をどう過ごすか、というアドバイスを行っています。

「内定した学生には、入社までの半年間が2つの意味で大切だと話しています。ひとつは、「学生最後の半年間」なので、やりたいことは社会人になる前に悔いなく全部やっておくように、ということ。もうひとつは、「働く直前の半年間」でもあるので、社会人生活のスタートダッシュを切るための準備をしておくように、ということです。そして、この準備すべき内容の大切なことのひとつとして、基礎的なパソコンスキルの習得を伝えています。というのも、入社後は業務上必要な覚えることが山ほどあるため、ExcelやPowerPointの使い方を一から覚えている余裕はありません。実務をどんどんこなしてもらうためにも、今後も新卒に関しては、「パソコンスキルは入社前に」ということを徹底していきたいと考えています」

IT企業というイメージが強いぐるなびですが、「飲食店のサポーター」として、飲食店を訪問する営業部隊が社員の約半数を占めています。彼らも、業務上Microsoft[®] Officeのアプリケーションを多用しているとのこと。

「当社は事務系だけでなく、営業もデータ入力やプレゼン資料や報告書などの作成作業が多く、Officeのアプリケーションをはじめ、パソコンを使う頻度は結構高いです。だからこそ、

社員の土台を築く人材育成開発

—— 創造性豊かなサービスを生み出すために

2010年で会社設立10年を経過し、社員数も増え続けているぐるなびでは、人材育成にこれまで以上に注力していく方針だと言います。「実は、2009年が当社における全社的な人材育成への取り組み元年だと言えます。それまでは、部署ごとに個々の研修を行っていましたが、2009年10月から全社的な体系を整備し、多数の新しい研修メニューも導入しています。また、各部門内での日常的な育成施策への支援も人事の大切な役割だと認識しています」

時代とともに進化する食のトータルサイトを通じて、価値ある情報を発信し続けているぐるなびの全社員にとって、パソコンスキルは基本であり、スピードが求められるIT業界において必要不可欠な要素だと言えるでしょう。

「ぐるなびで働くうえで大切なのは、常に新しい情報や市場動向などをキャッチアップして、それを食にまつわる新たな価値につなげていくこと。そのために一番大切なのは「好奇心」です。そういった好奇心が、主体的に考えていく力や何事に対しても関心をもって追求していく姿勢に通じていくと思います。関心が内向きになり、手元しか見えないようになってしまうと、良い仕事はできません。新たな価値創造に注力するためにも、パソコンスキルを向上させることは実は大切だと感じています。なぜなら、事務的な業務効率が上がれば、仕事のスピードアップはもとより、アイデアを練る時間や新しいことに取り組むゆとりを作り出すことができるからです」

より良い、より価値あるサービスを生み出すためにも、社員の土台作りにも寄与できる人材育成プログラムの開発に力を入れていきたい、と田中さんは今後の抱負をお話くださいました。



活気あふれるぐるなび社内の様子

どんな部署に配属になっても使えないと困るExcelやPowerPointなどの利用スキルの必要性を内定者には早めにアナウンスしています。その他の同期がバリバリと仕事に取り組んでいるなか、パソコン操作で手間取ってしまうのはかわいそうですからね」

資格導入後の反響

—— パソコンスキルの底上げに成功

2009年度入社の人材育成プログラムの受講者は51人。取得科目としては、Word、Excel、PowerPointの3科目が導入されました。今回は、全員合格とはいきませんでした。社内での反響は高かったそうです。

「各部署の担当業務に準じて、社員のパソコンスキルにはバラつきがありますが、2009年度入社の新人がパソコン操作でつまづいているという声は、以前と比較するとあまり聞きませんでした。こうした状況からも、「新卒入社の人材育成プログラムを一定レベルに揃えてスタートする」という目標は、ある程度達成できたと思えます。ただし、やるからには全員合格を目指したいですし、現場の業務に本当に役立つことが大切ですから、まだまだ課題はあります」と田中さんは話します。

また、資格取得を到達目標にしたことで、合格の喜びの声も寄せられたとのこと。「Officeのアプリケーションに親しみのない新入社員が、真面目に勉強して合格すると、何か「証」がもらえたようでモチベーションも上がるという話を聞きました。また、不合格だった新入社員も、果敢に2度目、3度目の受験に挑戦していましたから、明確な目標を設定して良かったと思っています。資格は、合格することに価値があるというより、取得のために学んでスキルを身につけることに意義があり、その努力に対する結果が『合格認定書』として目に見えることが大切なことだと思っています。人材育成には適切なフィードバックが大切ですが、合格という明確なフィードバックを入社後すぐに得られたことは大きかったですね。入社した一人ひとりの社員が、それぞれの持ち場で意欲的に仕事に取り組んでいけるよう、また、社会人としてより良いスタートができるよう、今後ももしっかりサポートしていきたいと考えています」

株式会社ぐるなび

<http://www.gnavi.co.jp/company/>

所在地 東京都千代田区有楽町1-2-2 東宝日比谷ビル
従業員数 約1,500人(国内グループ企業も含む)

2000年設立。「日本発、世界へ」を企業理念に、飲食店情報検索サイト「ぐるなび」をはじめ、「食」に関連したサイト(ぐるなびデリバリー)「ぐるなびレシピ」などを幅広く展開。また、「食」の枠を超え、多様化するニーズに対応するサイト(ぐるなびトラベル)「ぐるなびウェディング」などを数多く手がけている。

取材ご協力



管理本部 人事部門
部門長
田中 潤 さん